

## 英米の社会と文化I (その1)

2 units 2nd-year(1st semester)

Ayami Yoshida · ASSOCIATE PROFESSOR / DEPARTMENT OF HUMAN SCIENCES

**Target)** 英語詩を講読し、韻文で書かれたテキストの正確な読解、内容把握の訓練を行う。また、作品の時代や社会状況といったコンテキストについても考慮し、英語詩の評価・批評がおこなえる基礎を養成する。

**Outline)** 主に 18 世紀以降に書かれた英語詩を読む。作品の精読を通じて、英語で書かれた詩に対する理解を深め、作品の背景にある社会・文化状況についても考察する。前期(その1)では、比較的平易な作品を取り上げる。

**Keyword)** *poetry in English, reading poems, introduction to English poetry*

**Relational Lecture)** “英米文化研究 I (その1)”(0.5), “英米文化研究 I (その2)”(0.5), “英米文化研究 II (その1)”(0.5), “英米文化研究 II (その2)”(0.5), “英米の社会と文化 II (その1)”(0.5), “英米の社会と文化 II (その2)”(0.5), “英米文化研究 III (その1)”(0.5), “英米文化研究 III (その2)”(0.5), “文化批評論 (その1)”(0.5), “文化批評論 (その2)”(0.5)

**Notice)** 隔年開講。2011 年度は開講する。

**Goal)**

1. 授業で取り上げた詩については、正確な内容把握ができる。
2. 各作品の背景についても考慮して、作品の評価・批評が論理的にできる。

**Schedule)**

1. 以下にあげる詩人の作品の中から比較的平易なものを選び、毎回 3~5 編ずつ講読する予定です。学期中に 2 回のテストを行います。詳しい日程は最初の授業で指示します。
2. W. H. Auden (1907-73), William Blake (1757-1827), Elizabeth Bishop (1911-79),
3. John Clare (1793-1864), Austin Clarke (1896-1974), e. e. cummings (1894-1962)
4. Emily Dickinson (1830-86), Robert Frost (1874-1963), Thomas Hardy (1840-1928)
5. Seamus Heaney (1939- ), Ted Hughes (1930-1998), Patrick Kavanagh (1904-67),
6. John Keats (1795-1821), D. H. Lawrence (1885-1930), Norman Maccaig (1910-1996),
7. Sylvia Plath (1932-63), W. B. Yeats (1865-1939)
8. なお、取り上げる詩人については、変更されることもある。

**Evaluation Criteria)** 2 回のテストと、授業への出席・参加状況などから総合的

に評価する。評価のうち、テストを 8 割、その他を 2 割程度とする。

**Re-evaluation)** 行わない。

**Textbook)** 授業中に指定します。

**Reference)** 『リーダーズ英和辞典』またはそれと同等の収録語数を有する英和辞典を使用すること。電子辞書の使用も可。その他は、授業中に必要に応じて指示する。

**Contents)** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218385>

**Contact)**

⇒ Yoshida (1N10, +81-88-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL  
(Office Hour: Tuesday 11:55-12:50)

**Note)** 隔年開講(前期)。2011 年度は開講..